

研究者：高田ましろ（所属：東京医科歯科大学歯学部歯学科5年）

研究題目：短期海外歯科研修プログラム

目的：

1. タイにおける歯科教育および歯科治療に関する理解を深める。
2. 英語を用いて積極的にコミュニケーションをはかり、歯科に特有の英語や日常会話を身につける。
3. 異なる文化的・歴史的背景を持つ人々を理解し、グローバルな環境で課題に柔軟に対応できる歯科医療人・国際研究者となることを目指す。

概要：

1. 参加者：歯学部歯学科4年 高田ましろ、森山直哉
歯学部歯学科3年 張本竜也、椿礼子
2. 日時：2023年3月23日～3月31日
3. 訪問先：チュラロンコーン大学（以下CU）、シーナカリンウィロート大学（以下SWU）

研修内容：

1日目：3月23日（木）

午前は口腔領域の外科手術を行うための手術室にて、全身麻酔下での2件の手術を見学した。手術の内容は、上顎と下顎の位置関係を修正するための上顎骨切り術と、13歳患者の埋伏乳歯の抜歯である。1人目の骨切り術の患者はHIV患者であり、術中の出血の取り扱いに注意が必要で、血液を厳重に管理する様子を観察できた。

昼休みにCUの学食にて各々好きなメニューを選び、昼食をとった。タイ特有の辛い味付けと色々なメニューで使われているエビが印象的であった。

午後手術室へ戻ると、2人目の患者の抜歯術が終わったところで、麻酔のために経口挿管されたチューブを麻酔専門の歯科医師が取り外すところを観察した。続いて局所麻酔下で手術を行う部屋へ移動し、骨粗鬆症患者の上顎にできた骨の異形成部位を取り除く手術を見学した。術前の患者と挨拶をしたが、局所麻酔下なので意識があり、不安な表情をしていた。

口腔外科手術を実際に見学したのは初めてであり、手術の様子を間近でみることができ、大変参考になった。外科的な手術は、一般的に患者にとっての負担や影響が大きく、患者に安心して手術を受けてもらえるような配慮や信頼関係の構築の重要性を実感した。

2日目：3月24日（金）

午前はPak KretのBang Talatにある地域の子どもたちに向けて設立された歯科病院を見学した。歯科医院の隣にはその地域のプライマリーケアを担う病院が併設されていたが、私たちが見学したのはチャリティーの一環として運営されている歯科医院で、患者は無償で治療を受けら

れる。そこにはCUの学生が派遣されており、実地で診療をしていた。学生のうちから地域に根ざした医療施設において経験を積めるのは魅力的だと感じた。

この歯科医院を利用する子どもには両親がいなかったりする子どももいた。基本的には小学生に満たない子どもが多い印象で、子どもたちは施設のベンチや遊具が置かれた部屋で治療を待っていた。主に学生が教員のサポートなしで患者の診療をしていることには大いに驚いたものの、口腔内の健診などを手際よくこなしており、タイの学生が十分に臨床の現場で経験値を積んでいることに感嘆とした。現地の学生が治療の空き時間に各所を案内してくれて、治療の様子や施設の周囲について見学することができた。

午後は大学に戻り、歯内治療の学生実習を見学した。親日家の教授に実習室を紹介してもらい、東京医科歯科大学とCUの授業や教室の違いなどについてお話した。東京医科歯科大学卒のタイ人の先生もいらしかった。実習室は円形にユニットが組まれており、グループ学習がしやすいような配置だった。東京医科歯科大学の実習室は机が横に並んでおり、グループで話し合うことがあまりないので、国や大学ごとに実習の形態や雰囲気は相当異なるのだろうと思った。

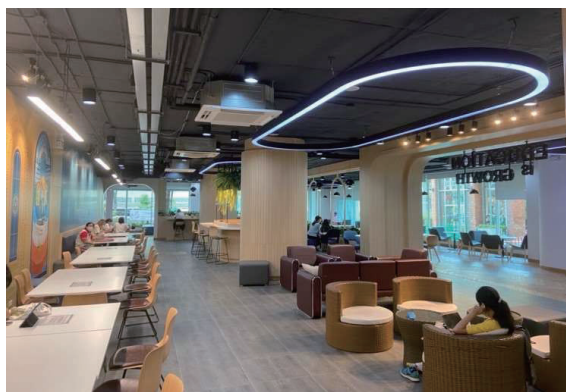
私たちが見学したときは、48人の学生に対して8人の教員が担当しており、教員と学生の比率は東京医科歯科大学とほとんど差がなかった。実習用のデスクの他に長机も用意されており、そこで複数の学生が頻繁に意見交換をしながら作業を進めており、学生自身が実習の作業について、クラスメイトと一緒に考える時間が多い印象だった。



(写真1) 病院の治療ユニットの様子



(写真2) 実習室の様子



(写真3) 図書館のフリースペース

3日目：3月27日（月）

午前にはSWUのキャンパス見学や大学に関する説明を受けた。学部長のDr. Kaewsuthaに大学の正門に位置するお寺、校庭、大学図書館などに連れていていただき、大学の歴史なども紹介していただきながら歯学部附属病院へと移動した。

歯学部附属病院と学生たちが授業を受ける教室は同じ建物内にあった。そこで大学の詳細やタイの歯科教育について、またタイの医療や公衆衛生



(写真4) 歯学部建物を背景にして学部長や教授と

についてなど、私たちの知らないタイの事情についてプレゼンテーションをしていただいた。そこで感じたのはSWUの教育レベルの高さだった。カリキュラムの充実度や競争力などがかなり高いレベルにあり、学生の勤勉さや学習に対する姿勢は私たちにとって学ぶことが数多くあった。

午後はSWUの歯科保存学・補綴学の見学をした。抜歯や下顎隆起の切除などの治療を5年生が行っている現場を見学した。タイでは4年生から患者を相手にすると聞いたが、実際に患者を前に素早く、なおかつスムーズな治療を行っており、学生の技術の高さにも驚いた。

4日目：3月28日（火）

午前には general treatment の診療室を見学した。患者は担当の先生から様々な一般的治療を受ける。設備面ではテンポラークラウン、ナイトガード、サージカルガイドの作製などに使用する3Dプリンターを紹介していただいた。

午後は最初に矯正歯科外来を見学した。石膏模型を3Dスキャンする機器があり、物理的な模型ではなくデータとして保存できるシステムになっていた。SWUでは今後データの保存におけるデジタル化を進めていくそうで、東京医科歯科大学に比べてデジタル化が進んでいると感じた。

次に小児歯科を見学した。ユニットのチェアは小児用に背もたれが低く、子供に対する歯磨き指導用の人形が置いてあった。どうしても暴れてしまう子供の治療のための拘束器具も置いてあった。治療を終えた子供には歯科医師が風船で花や犬を作ってプレゼントしていた。私達も風船で花を作って患者にプレゼントし、喜んでもらった。



(写真5) 拘束器具と歯磨き指導の人形

5日目：3月29日（水）

午前は、はじめに学生の実習室を見学した。一人一台の実習机には頭部模型や歯科治療に必要な基本的な装置が設置されており、その模型を患者と想定して歯科治療の練習を行う。学生50名ほどに対して、教員は5、6名だった。1人の教員が10名前後の学生に対してデモを行い、それを見て学生は自分の実習を進めていた。次に訪れた義歯作成用の実習室にはデモ用のカメラとそれを写すテレビが備え付けられており、教員がデモをした後で学生が自分の作業に取り掛かるという授業形態は東京医科歯科大学と同じであった。

午後は歯学部建物と別の場所にあるプレミアムクリニックを見学した。歯学部建物にある病院との違いは、予約が早く取れること、完全な個室であることだが、その分治療にかかる費用は高くなっている。診療する歯科医師に違いはないようだ。待合室には広々としたソファとテーブル、そして作業用デスクや仮眠が取れるベッドも設置してあった。治療室は全て個室で20部屋あり、どこも眺めの良い部屋であった。手術をするためのユニットがある部屋が最も広く、手術に必要な道具はその都度持ち込む形式になっていた。

その後、カルテ記入について大学院生から説明を受けた。歯列の図には、一本一本の歯に関してう蝕の状態や充填物などの治療歴を色分けして記載することになっていた。実際に色鉛筆を使って自分達も記入する体験をした。日本では通常色を使わないが、色を使って記録の方が一目で状態を把握しやすいと感じた。

6日目：3月30日（木）

午前中はSWU 1年生の歯の解剖学実習に参加した。1年生は上下左側の第二小臼歯と第一大臼歯の歯型彫刻を行っていた。噛み合わせを考慮しながら、上顎と下顎のそれぞれの咬合面を作製していたが、自分達が1年生の時に歯ごとの形や咬合面に関する知識はほとんどなかったので、タイの歯科教育のスピードに大変驚いた。

私たちは学部6年生の皆さんに指導してもらいながら、上顎左側中切歯の歯冠の歯型彫刻を行った。まずは作製する歯冠よりも一回り大きくなるように溶かしたワックスを乗せていく。それから歯の形をよく観察しながら不要な部分を削って大きさや曲線を表現した。実際の歯と同じ



（写真6）実習室の机



（写真7）プレミアムクリニックの入口



(写真8) 歯型彫刻の様子

大きさでの歯型彫刻はまだ授業でやったことがなかったため、細かい作業であると感じた。

午後の初めは歯学部建物内にある研究室や実験に使用する道具を保管する部屋を見学した。その後、1年生と図書館の建物のフリースペースで一緒に人狼ゲームをした。英語で人狼ゲームをするのは初めてだったが、1年生達が丁寧に説明してくれたので楽しくゲームを行うことができた。言語が違ってもゲームを楽しむというのは世界共通なのだと感じた。

午後の最後には5年生が行っていた自己免疫に関する授業に参加した。学生達がグループで1つの疾患について英語でプレゼンテーションを行い、その後質疑応答があった。学生の英語でのプレゼンテーションのレベルに圧倒され、

また先生達からの質問にも適切に答えている姿を見て、自分達も英語や歯学の勉強を頑張らねばと強く思った。

感想：

今回の研修を通して、タイの歯学部はカリキュラムの進む早さが日本よりも圧倒的に早いということを何度も実感した。私たちの大学では5年生の後期から患者の治療を行う実習が始まるため、メンバーの誰も患者を相手にした治療経験はなかったが、実際にタイで私たちよりも低学年の学生がてきばきと患者の治療を行っている姿を目にした時はかなり衝撃的であった。また日々の授業や実習に向けた勉強量は私たちよりも圧倒的にタイの学生の方が多く、日々の積み重ねが診療での知識の多さや技術の高さにつながることを実感し、今後の学修への大きなモチベーションにつながった。

また今回の研修中一番楽しみにしていたことだが、約2年半オンラインで交流を続けてきたSWUの学生達とようやく対面で会うことができた。国を超えて今後も一生続くであろう繋がりを築くことができ、貴重な経験をたくさんさせてもらえた。彼らとの友好関係を今後も深めつつ、切磋琢磨していきたい。